

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年 12月

事業所名 つばさ学園

		チェック項目	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練等スペースとの関係で適切であるか	・子どもたちが遊べるスペースは十分に確保できているが、人が密になりやすい場面があるため、対策を検討していく。
	②	職員の配置数は適切であるか	・職員配置については、4:1ではなく、2:1になるよう手厚い支援が行える体制が整っている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	・視覚刺激を減らせるよう構造化した環境設定を行い、利用児の部屋を分かりやすくしている。 ・施設内の場所によりバリアフリーになっていないため、施設全体のバリアフリー化に取り組む。
業務改善	④	業務改善を進めるためにPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	・職員全体でPDCAサイクルを行うことが必要なので、書式を使用しながら実施している。
	⑤	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業者の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	・定期的にミーティング等で保護者の意向を踏まえた業務改善等の話し合いを実施できるように取り組む。
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	・事業所評価を、毎年ホームページで公表し、公表時に保護者へお便り等で周知している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	・第三者委員会を設置し、保護者会を開催している。その結果を踏まえ、業務改善に取り組んでいる。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	・経験年数、役職によって業務命令として研修に参加している。又、自己研鑽の研修は自己選択できる体制を整えている。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	・見学時からアセスメントを実施。利用契約時にアセスメントシートを作成し、担当者会議で保護者のニーズを再確認し、契約時に説明を行っている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	・全職員が使用できるように、標準化されたアセスメントツールについて検討していく。
	⑪	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	・児童発達支援管理責任者が作成し、子どもの状況を踏まえ、担当者と家族の状況、本人の状況に合わせて支援内容を設定している。

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	・児童発達支援計画を常に意識できるよう個別のカルテに記入できるようにして支援している。
	⑬	活動プログラムの立案をチームで行っているか	・児童発達支援管理責任者と各支援者が子どもの発達段階や情緒面等を考慮し、クラスごとに活動プログラムを決定している。
	⑭	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	・子どもの発達段階や小集団の様子により、室内外への活動や、散歩など工夫をして実施している。
	⑮	子どもの状況に応じて、個別活動と集団生活を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	・集団生活の中で子どもの発達状況に応じて、職員1名が個室でマンツーマン対応するなど、個別活動を行っている。又、個別活動の内容を児童発達支援計画に明記している。
	⑯	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	・毎日必ず朝ミーティングを全部署合同で実施している。又、その後、各クラスごとに支援体制や役割分担等を確認している。
	⑰	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	・療育終了後は、クラスごとに分かれ、気が付いた点や支援の変更点、共有すべき点を統一し、必ず支援者間で支援内容の振り返りをする時間を確保している。
	⑱	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	・ケース記録は必ず支援をした支援者が記入するようにしている。日々の支援を振り返れるよう支援終了後にミーティングをして振り返りを行っている。
	⑲	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	・保護者や子どもさんの発達を見ながら、モニタリングを行い、児童発達支援計画に沿った見直しを判断している。
	関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか
㉑		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	・子どもさんの状況に応じて、保健所の地区担当保健師さんや子ども家庭支援センターの相談員さんと情報共有をしている。
㉒		医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	・現在、医療的ケアが必要な子どもさんの利用がないため、特別な連携は行っていない。
㉓		医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	・現在、医療的ケアが必要な子どもさんの利用がないため、主治医や協力医療機関等との連絡体制は整えていない。
㉔		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	・地域移行する子どもさんの情報共有は、学校関係、地域の幼稚園、こども園と対面や電話で連絡を取り合うなどして情報共有と相互理解に努めている。
㉕		移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	・地域移行する子どもさんの情報共有は、学校関係、地域の幼稚園、こども園と対面や電話で連絡を取り合うなどして情報共有と相互理解に努めている。
㉖		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	・他センターと研修会を立ち上げ、年に2度研修会を開催している。

	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	・現在は交流や活動は行っていないが、離接しているこども園とは、避難訓練を定期的に合同で実施している。
	㉑	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	・自立支援協議会(子ども部会)へは、担当者(専任)を決め、協議会へ参加を行っている。
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	・連絡帳や送迎時の時間を活用して、子どもの状況や課題についてお伝えしている。
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	・大分こども療育センターが主体となりペアトレ研修を実施している。
保護者への説明等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	・利用契約の締結時に、利用規約、支援の具体的な内容、利用者負担額や上限額管理の仕組みと利用方法、利用のしおりに用いた具体的な利用方法まで丁寧に説明している。
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	・児童発達支援計画は、アセスメントの段階から保護者のニーズを把握し、説明時には個別の時間を設けて同意を得ている。
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	・毎日の登校園時に保護者の表情や最近の様子を確認し、保護者へ声かけを行い相談内容については助言を行っている。
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	・感染対策を徹底し保護者会を定期的実施している。
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	・個別に相談できる機会や療育相談会を行い適宜、対応をしている。 ・相談があった際は、クラス担任より責任者へ伝達を迅速に行い、対応をしている。
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	・毎月、クラスごとに園だよりを発行し、HP上でブログを公開し療育時の様子や行事などの発信をしている。
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意しているか	・利用児の個人情報については、一か所に全ての書類を整理している。又、USBなど、勝手に持ち出すことがないようにし、年度毎に整理し倉庫へ保管している。
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	・連絡帳などを使い情報伝達の配慮を行っている。保護者からの情報発信がない場合も、こちらから積極的にコミュニケーションをとるように連絡を心掛けている。
	㉜	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	・感染症対策として、園行事で密にならないよう対応している。今後の動向を確認していきながら検討していく。
	非常時等の対応	㉝	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施しているか

④①	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	・月に一度、避難訓練を実施している。訓練内容や時間など、施設内の危機管理委員会が会議を開き、内容を決定し実施している。
④②	事前に、予防接種やてんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	・入園時と毎年4月に健康診断や緊急時連絡票を用いて記入してもらっている。 ・発作がある場合は必要に応じて「同意書」を作成して個別の対応を行っている。
④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	・アレルギーがある場合は、必要に応じて医師の指示書を発行して対応している。又、同意書を用いて、給食を提供している。
④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	・ヒヤリハットの作成は行っているが、事例集などを作成して、共有できるように取り組みを検討したい。
④⑤	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	・虐待防止研修会には必ず1名は参加し復命研修を行い共通認識を持つように努めている。
④⑥	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	・身体拘束時の対応については、契約時に同意書を得ている。又、身体拘束同意書の作成を行い保護者へ説明している、

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。